

高

朋 友

1989



東京電機大学高等学校同窓会

《表紙について》

本誌名の「朋友」は仲のよい友達とか友人という意味を持ち、英語での「FOR YOU」…(会員皆様方のための)という意味を持たせております。これは同窓会幹事会において鷲見篤氏よりご提言いただいたものです。

また、表紙の画は河部貞夫先生作のレリーフ「若者の像」を、本誌のため再度先生にデッサンしていただいたものです。もとになったレリーフは、学園創立60周年記念に合わせて、同窓会で募金したレリーフ基金及び学園、生徒会の援助により製作されたもので、現在も小石川校舎玄関口右手におかれています。

◆ ◆ ◆ 目 次 ◆ ◆ ◆

高等学校創立50年を迎えて	1
母校を巡るこれからの同窓会活動	2
恩師の横顔（当時のアルバムから）	3
クラブ紹介（ワンダーフォーゲル部）	6
3代にわたって	8
創立50周年記念卒業生招待会	10
〔名簿〕歴代教員	12
現教職員	14
同窓会会則及び組織図	16
クラス委員名簿	17
同窓会の活動報告	28
クラス会お祝金について	30
名簿の整備・校友会案内	31
後援会活動	32

高等学校創立50年を迎えて

登 宮 崎
東京電機大学高等学校校長 宮崎
東京電機大学同窓会名誉会長



高等学校同窓会は、設立準備委員会が発足して以来、今年で丁度30年を迎えました。設立準備委員の皆様の献身的な努力が、現在、立派な組織として、母校の充実発展のために大きく寄与していることに厚く御礼を申し上げます。同窓会設立に携わっていただいた諸氏に心から深甚の敬意と感謝を申し上げます。高等学校も創立50年を迎えた。半世紀の歴史を通して、この光輝ある伝統が一朝一夕に成ったのではなく、幾多の風雪に耐えて、はじめて寒梅の馥郁たるが如くに進展してまいりました。これも、ひとえに先輩諸賢の辛苦の賜であることに深く感謝申し上げます。

創立50年も100年も曆日を重ねることによって、巡って来る日ではありますが、一つの機能をもった組織体が創生の精神と不断の努力によって、発展拡大させ歴史を重ね、伝統を形成し、無限の存在であろうとすることは、まことに容易なことではありません。昨今、21世紀に向けての教育の基本的な在り方等について、いろいろ取り沙汰されていますが、本校においても、これから取り組まねばならない多くの課題が残されています。国際化時代への対応、情報化時代への対応、新教育メディアの導入開発、都市型学校としての進路指導等、限りなく続けなければなりません。

21世紀まであとわずかですが、学園は充実発展を期し、将来構想を推進しつつあります。高等学校は昭和40年4月に現在地の小石川校舎に移転をし、24年間の歳月を経過いたしました。創立以来、優れた人材を大学や社会に送り出し、社会の発展に貢献してまいりました。この度、高等学校は、学園の将来計画として、平成4年4月より、今までグランドとして利用していました小金井校地（約22,000m²）に新校舎を建設し全面移転することを決定いたしました。現在の在校生が卒業し、平成2年度入学生が3年次に移転することになりますので、将来に向けての教育計画や来年度入学生に対する生徒募集に関わる広報等精力的に検討を進めている所です。若干それらの内容についてご報告申し上げます。

普通科については、進学の多様化を目指して、東京電機大学への進学を含め、大学進学により一層対応を深めたカリキュラムに編成いたしました。

また、工業科については、将来の電気、電子、電子機械科を再編成し、電子電気科、情報科学科に改編し、現在、申請中であります。社会のニーズ、産業構造等の背景を配慮し、エレクトロニクス技術を基礎として、電子・電気技術の一体化を図って、総合的な知識、技術を身に付けることを目標に電子電気科を、また、今後の情報関連分野の社会構造の拡大深化を踏まえてソフトウェア技術、ハードウェア技術、システム工学を軸として教育を進めることを目標とした情報科学科の2科に改編いたしました。最近、工業科へ入学していく生徒の進路指向は、大学進学希望が多く、これにも対応できるカリキュラム編成を行ないました。

幸い、普通科、電子電気科、情報科学科とも平成2年度入学生から、大学当局のご協力により、東京電機大学への推薦率を大幅に改善していただき、更に、アメリカのアイオワ大学工学部への推薦留学制度にも協定を結び、生徒の大学進学に対する門戸が拡大された訳です。それだけに、それらに対応すべく充実した教育実践を展開しなければならないと考えております。今後共、母校へのご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、同窓会の益々のご発展をお祈り致します。

母校を巡るこれからの同窓会活動

印 宮

東京電機大学高等学校同窓会会长

印 宮 登

☆はじめに

同窓会員である卒業生の皆様、特別会員である教職員の皆様には、日頃のご支援・ご協力を深謝申し上げます。今後の同窓会活動の計画等を記述して、同窓会会长挨拶にかえさせて頂きます。

☆50周年記念卒業生招待会のこと

去る6月17日日中友好会館に於て、全卒業生を対象とした第4回卒業生招待会が、250名を越える卒業生の出席のもとに開催された。元教職員・学園役職員等のご来賓、現教職員を合わせると三百数十名となり会場も手狭に感じられた。

席上、廣川学園理事長及び宮崎校長より、「高等学校は平成4年4月から小金井に移転して開校すること、工業科の課程が平成2年度募集より、現在の3学科制から、電子電気科・情報科学科の2学科制に改編されること」等が発表された。

同窓会会长として私は、「昭和40年に神田から小石川に、更に平成4年には小金井に移転するということで、半世紀の間に2度も移転する。古い卒業生の皆様には、やっと小石川校舎に慣れて頂いたことでも大変残念というか、不思議な感傷にとらわれる。しかし小金井移転に際しては、丁度小石川移転時に同窓制の募金に依って、正面玄関横に『若者の像』を寄贈した前例もあるので、具体的に現在これという物は決まっていないが、何か記念になる物を寄贈致したいと考えているので、本日ご出席の同窓生の皆様のご協力をお願い致したい。」という主旨のご挨拶を申し上げた。

同窓会創立25周年の昭和60年に記念として、学校には〈桜の下の入学式〉が似合うので、桜の木を寄贈したいと申し入れたが、何分狭い校地のことで余地がなく、無理と分かった。そこで苦肉の策として、学校前道路の植樹を桜に変えようと文京区に申し入れたが、これも「桜は大きくなり車両交通の妨げとなるし、手入れも大変」という理由で断わられ、結局桜の植樹は日の目を見なかった。今度の小金井校地は広く余裕もあり、



桜の植樹にはうって付けであると考えている次第です。

☆小金井移転のこと

教育とは、熱心な教師と真摯な学生と机があれば良いといわれるが、日本の国家には文部省なるものがあり、学校と名のつくものは、こここの規制を受けることとなる。設置基準なるものがあり、学生1名当たり校舎は何平方米・校地は何平方米なければならないと定められている。これによると大学工学部、高等学校とも校地の基準をクリアしていない。特に工学部に於ては、大学院の設置、学科定員増等がこの基準を満たしていないばかりに許可にならない。定員に対しての校地は6万坪、実員の定員化に際しては更に1万坪が必要とされている。これらを解決すべく、昭和63年12月に千葉ニュータウンに新しいキャンパス用地を購入したが、その代金に充てるために、小石川を処分した訳である。

高等学校が大学の犠牲になったという感がしない訳ではないが、移転に際して設置基準を満たした、新しい高等学校として生まれ変ることを切に希望致します。また学園当局は、移転に際して

1. 大学推薦入学枠の拡大
2. 他校に誇れる施設・設備の完備

等を約束しました。

私達同窓生の義務は、これらの約束が反古にならないように、見守っていくことにあると思います。これまた皆様のご協力をお願い致します。

恩師の横顔..... 当時のアルバムから

平成25年味留

母校東京電機大学高等学校は、昭和14年の東京電機工業学校の創立以来、本年で創立50周年を迎えることとなります。50年の歴史を振り返ると、懐かしい先生方がたくさんいらっしゃいます。その先生方を写真で紹介します。写真はすべて当時の卒業アルバムや記念写真からのものです。しばしお先生方より教えを受けた昔に戻り、思い出に浸っていただけたらと思います。

昭和20年

昭和19年4月 校名を電機第一工業学校と改称し、別に電機第二工業学校を設置する。

昭和21年4月 財団法人電機学校を、財団法人電機学園と改称。



波多 謙三校長



橋本 健之助



清水 明



磯 部 直 吉



清野 明夫



稻垣 忠雄



作道 兵次



坂田 権重



当時の職員室

昭和26年

昭和35年頃

昭和24年3月 併設中学校廃校。

昭和34年10月 文部省産業教育研究指定校として、研究発表会を行なう。



〔1列左から〕大江康男、遠藤金次、中島輝夫、野口茂、宮坂亜雄、橋本健之助校長、清水明、加藤高治、吉田宇一、佐藤善慶 〔2列左から〕長海次郎、山崎与作、首藤富家、河内正夫、早川喜知、岩佐徹、桜井悌二郎、吉田孝俊、高橋源八 〔3列左から〕伊藤克己、板垣光夫、斎藤実、鈴木徳三、平野三郎、角田秀夫、原口喜八、神庭明、磯部直吉 〔4列左から〕岩松正弥、服部三郎、伏見栄治郎、小西吉孝、大渡正治、青木宗徳、酒井勲



〔1列左から〕北原泰彦、大久保芳隨、鈴木治郎、大江康男、平野三郎、池谷武雄、清水明、高橋源八、佐藤吉弥、佐藤善慶、角田秀夫 〔2列左から〕神庭明、吉田孝俊、桜井松治、伊藤克己、野口茂、横田良次郎、小針藤男、角川一治、宮本敏雄 〔3列左から〕桜井悌二郎、杉野良知、中島輝夫、渡辺明、石川孝、菊地諒、横山実、渡辺太、白井光太郎 〔4列左から〕大田健、伏見栄次郎、林六郎、下崎和彦、河部貞夫、石塚実、斎藤広吉

昭和30年

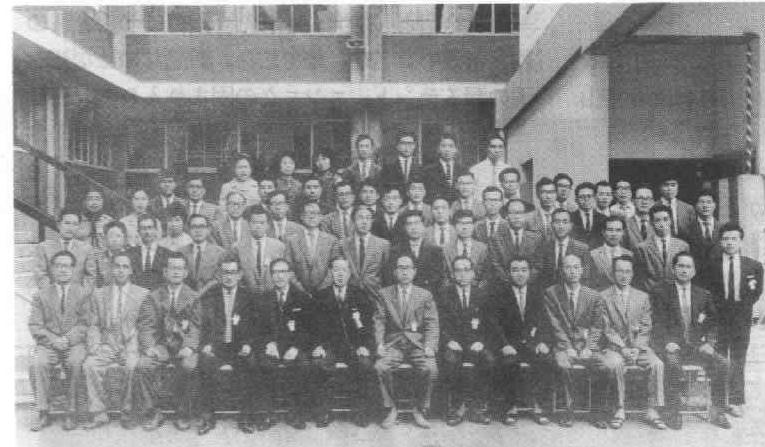
昭和40年

昭和31年2月 校名を東京電機大学高等学校と改称。

昭和40年3月 小石川校舎ならびに体育館竣工。
(写真は落成記念)



〔1列左から〕吉田宇一、大渡正治、林六郎、波多諱三、宇野幸一、水渡明、宮坂亜雄、平野三郎、大江康男、〔2列左から〕大久保芳隨、伊藤克己、佐藤吉弥、佐藤善慶、桜井悌二郎、長海次郎、小西吉孝、倉持悦久、〔3列左から〕土肥健三、横田良次郎、角川一治、鈴木藤男、角田秀夫、中島輝夫、池田市寿、河部貞三、鈴木徳三、早川喜知、野口茂 〔4列左から〕桜井松治、手島治郎、横山実、吉田孝俊、杉野良知、寺尾功吉



〔1列左から〕大久保芳隨、中島輝夫、桜井松治、角川一治、平野三郎、清水明校長、佐藤吉弥、大渡正治、吉田宇一、杉野良知、大江康男、吉田孝俊 〔2列左から〕中田勇、池田信子、伏見栄次郎、角田秀夫、伊藤克己、野口茂、河部貞夫、神庭明、川島純一、大田健、下崎和彦、宮本敏夫、山田宏明、大湯幸夫 〔3列左から〕鈴木治郎、藤田明子、伊藤愛子、中山岩夫、板垣光夫、横田良次郎、菊地諒、渡辺太、中村圭佑、斎藤成信、中村広幸、白川守昭、槙将 〔4列左から〕五十木基晴、市川正蔵、石川孝、横山実、中村隆一、磯部昭二、宮崎登、見崎正行、則友克敏、青木正男、田中義明、白井光太郎 〔5列左から〕酒井ヨシ、嶋沢喜美子、前田桂子、加藤栄治、高久広毅、大橋俊三、松岡三夫

本号より各クラブの活動実績を連載してゆきたい
と思います。この企画により各クラブ内のOBとのつながりが深まることを期待します。

私のワンダーフォーゲル部

昭和38年E1卒業
形屋憲一



〈筆者：右端〉

私が通学していた頃の電大高は、自宅から都電にゆられて約20分、神田の錦町校舎でした。5階には電大生の教室があり、昼休時間などは大学生と同じに校外へ出て定食屋や、中華ソバ屋等で1日に2回目から3回目の昼食をすませる事もできる校舎でした。

ワンダーフォーゲル部は私が入学した昭和35年に誕生しました。当初は先輩の方々によって山岳同好会として活動を始めようとされたそうですが、冬山の遭難とか、魔の谷川岳の岸壁で墜落死、また山岳部のシゴキ事件等がときおり新聞に報道され、山岳部は危険が多いと先生やPTAの方々に問題になっていました。部発足当時のクラブ顧問（大田健先生）初め諸先生方の御指導により危険な山行きを避け尾根歩き主体のワンダーフォーゲル部として誕生したとのことです。出来たての部には先輩も後輩もいません。

2、3年生が6～7名と私達1年生が約15名、3年生が部長になり総てが新入部員ということで部活動が始まりました。年間活動の資料もなく、テントもなければ金もなく、初めてもらった部活動費で買ったのが、4～5人用テント2幕だ

いじな最初の財産でした。日頃の訓練は、皇居一周のマラソン、砂入りザックで階段登り、小石川の三角グラウンドにて一泊キャンプ等々、ひたすら山へ登りたい為の体力、気力、技術をきたえておりました。待ちに待ったワンダーフォーゲル部第一回夏合宿として発表された計画は、なんとあの秩父音頭で有名な長瀧でした。新品なのになぜか雨の漏るテント、ニンニクの固まり入りカレーライス、山の頂きに登ることもなく長瀧の清流で水泳、帰りの電車の中で思い切り「山男の歌」を合唱してアルプスに登った気持ちで帰宅。部活も誕生より1、2年の頃には、夏合宿基礎訓練の場を表丹沢としてました。第2回目の夏合宿は、美ヶ原より霧ヶ峰へ、第3回目は、南アルプス駒ヶ岳より北岳への山行となり楽しい思い出となっています。

私にとって電大高への入学そしてクラブ活動、この三年間で現在の体力や知識の大部分が養われたような気がします。そしてなによりも数多くの人とのめぐり合い、タテ、ヨコの人間もようを勉強させてもらいました。

最後にかけがいのない自然を大切にしよう。

現在のワンダーフォーゲル部

(2L1)
矢作光男

まず、現在のワンダーフォーゲル部の面々を紹介しましょう。最近、雨男伝説が消えつつある顧問の内山先生。4月ごろロマンを求めて学校をやめて旅に出てしまった元副顧問の島村先生。常磐快速で毎日出勤している副顧問の前田先生。零戦好きの部長の片倉君。土曜の夜をENJOYしている副部長の篠原君。山でよくコケる計画の横山君。ギター好きの会計の新美君。ひとり旅をする同じく会計の加藤君。ワンゲル部員で唯一山が好きな装備の塚谷君。戦争好きのゲリラ野郎の薬品の小林君。魚を食えない食事の徳永君。うちまたをどうにかしたほうがいい柏谷君。マウンテン・バイクが趣味の滝野。足の早い茂呂。女性ホルモンの多い海老根。山で腹をこわす井上。柔道が好きな草間。ついてない真田。買い出しに必ず行かされる向後。そして、このように字数をかせぎながらこの文章を書いている面倒くさがりの私、記録の矢作です。

このように、みんな一人一人個性をもっているワンゲル部ですが、みんな同じ釜の飯を食ったり、いっしょに寝泊りをしているせいかケンカもなく、仲良くやっています。しかし、今のワンゲル部は仲が良いのはいいけれど、ワンゲル部発足以来最も軟弱で、最もいいかけんなワンゲル部だと思います。例をあげてみましょう。いいかけん

な点としては、生徒会に決算報告を出し忘れて、予算が3万も減ってしまったことや、紅茶を買い忘れて昼食の時に水でパンを食ったことなどです。そして、軟弱な点としては、山に行った時にみんなで口々に「つかれたよ～」とか、「つらいよ～」などと弱音をはいてしまうことや、トレーニングの時にもまた弱音をはいてしまうやつが多いことです。

なぜ、このような軟弱でいいかけんなワンゲル部になってしまったのでしょうか。昔のワンゲル部は、50kgもの重さのザックを背負って奥多摩に歩荷へ行ったり、冬山登山をしてみたり、スキー場の脇にテントを張ってスキー合宿をやったりしたそうです。その時代のワンゲル部のOBの方々は、たぶんこの文章を読んで激怒していることと思います。このようなワンゲル部になってしまったのは、ぼくたちの一年の時に二年生がいなくて、要領のわからないうちに三年生が引退してしまったからなのです。だから知らないことが多くいいかけんになりました。一年間自分たちでやってきてやっと要領がつかめました。これから、この軟弱でいいかけんなワンゲルを治療していき、ワンゲル部の伝統を守っていきたいと思います。



〈筆者：中央〉



3代にわたって

3代にわたって学園卒業者であり、活躍されているご一家に一文を。という企画です。学園生活の移り変わりがお伝えできれば幸いです。

三輪家

三輪廣二さん 電機学校卒

三輪勝人さん 昭和41年大学ⅡD卒

三輪政幸さん 平成元年度高校3年在学中



政幸さんを見送る勝人さん（成田空港にて）

三輪 勝人さん

父、私と息子、三代にわたり学園でお世話になりました。私の父は明治の終から大正の始めに電機学校に入学していると思いますが、私の出生から60日目で父は他界し、資料も戦災で焼失し、残っているのは父の写真一枚だけで、中学生時代に母から、お父さんは、神田の電機学校を出たと聞いていました。私の卒業した頃は高度経済成長期で、昭和49年の第一次石油ショックまでは、隣国韓国の今と何か共通していたように思います。大学での思い出は、先生方では、舟橋憲治先生、磯部直吉先生、菊地高先生を授業風景と共に印象深く記憶しており、又窪田先生には二年次に奨学金の事でお世話になり、当時の毎月5千円が心と懐を豊かにしてくれた事は、忘れられず感謝しております。又在学中4年間良き友人に恵まれ、勉学に遊びに共に行動した事、卒業して2、3年になるが今も続いている。電機大学で得た宝の一つである友人は、年を経過するにしたがってその比重は大きくなるような気が致します。苦い思いでは、実験レポートの期限に追いまくられた事。何年か前まで、提出期限や試験の夢を見た事がありました。出来の良くない学生だったからでしょう。卒論では「ニキシー管ドライバ回路のトランジスタ化」と言うテーマに4人でとり組み、やるなら実験までやろうと言う事になり、当時まだ高価だったトランジスタを集めたり、勤務先の会社から、それぞれ部品を都合してもらったりして、本論でない部分で苦労した事が昨日のようあります。在校生の皆様も、常に新しい事実へのチャレンジ精神と失敗を恐れる事なく、電大高の精神で頑張って下さい。

三輪 政幸さん

入学式の次の日、始めて自分のクラスに入り驚いた事は、黒いやつしかいない事でした。わかりきった事ですが全員男子なのです。中学の風景に慣れていた私達にとってはとても変な感じがしました。しかし、この男子だけという事にどんな意味があるか、このごろ分かってきたような気がします。

1年生の終の頃、部活動にも入らず、充実できない毎日を送っていた自分が大変いやになりました。高校生活で「これをやった」というものが無い事は、青春の1ページを空白にしてしまう事ではないかと思い、いきなりプラスバンド部に入りました。ここで始めて先輩というものを経験し、先輩後輩関係のすばらしさを知ったわけです。楽譜もろくに読めない私を親身に指導して下さり、又、部活の厳しさも知りました。これは男子だけのプラスであるからこそ、私は思います。そして部活に入る前までは「親友」と呼べる人はいませんでした。しかし今は部活の中に自分の夢や将来の事、どう生きていく事が人間として良い事なのか、という事まで話し合える友達がいます。これも男同士だからだと思います。これからも、友達、自分が先輩としてやっていかなければならない部活を大切にしていくと思います。先生が教室にきて、「おーいズボンはけー」も男子校だからでは？

加藤家

加藤幸之助さん 昭和5年電機学校卒

加藤康太郎さん 昭和29年高校全C科卒

加藤浩章さん 昭和58年高校E科卒



株式会社加藤電気工業所の親子3代の雄姿

加藤 康太郎さん

私の父幸之助は昭和4年、青雲の志を抱いて秋田県下から上京し、昭和7年電機学校高等工業科を卒業しました。当時「神田の電機学校」と言えば世に名高い実力高がありました。父は卒業後陸軍に奉職し、満州で無線施設の建設に従事しましたが、その経験が戦後、鉄塔と空中線の加藤電気工業所を創立する土台となっています。

父は当然のように私を電大高に入学させましたが、多感な少年時代に自分の進路を思い悩んだ懐かしい記憶があります。私は昭和29年電大高の通信科から電大に進みました。当時は無試験推薦制度がなく、現役で合格したのは通信、電気、普通の各科各2名計6名という厳しいものでした。

昭和33年、大学を卒業して東芝に入社し、米国勤務の機会を得ました。英会話の巧拙は兎も角、外人と接触に馴れて所謂国際感覚を体得したことは有益な体験であったと思っています。3年後、父の強い希望により家業を継ぐことになりましたが、東芝勤務は悲喜交々至る忘れ難いサラリーマンの時代がありました。

現在は父が築いた事業の基盤に立って、何とか業績の伸展をと微力を傾注する毎日です。

ただ今、父は老齢のため長期療養中であります。父の強制的とも言える私の進路決定に対し、今では感謝の念をもって回顧することができます。

私の息子浩章は私と同様に電大高から電大に進み、本年3月理工学部建設工学科を卒業しました。

三代にわたる電大のご教導に対し、幾許かのご恩返しを念願しておりましたところ、浩章の高校入学時にPTA委員に推され、3年生の時にはPTA会長の要職を勤めさせて頂きました。

現在は大学の評議員として3期連続して名を連ねる栄に浴しております。

三代続いた電大一家、電大っ子というそのことに大いなる誇りを感じておりますとともに、その何に恥じぬ三代でなければならないと強く自戒している次第です。

加藤 浩章さん

高校同窓会より「朋友」へ「三代にわたって」という題でなにか書くようにとの依頼を受けましたので一筆書かせて戴きます。私はなにも分からなかった中学三年の時に、両親の奨めと祖父と父の出身校ということと自分でも幼い頃から手先でする仕事や電気などにも多少の興味があったので電大高校を受験し、幸いにも合格することが出来ました。その後幸いにも電機大学に推薦で進学でき、この春建設工学科を卒業しました。同科を選んだのも家業では通信施設の建設工事には土木の知識が必要不可欠だったからです。現在は海野設計事務所（社長は電大建築科の一回生で学識並びに人格とも秀れた方です）に勤務し毎日楽しくしかも徹底的にシゴかれています。適切な父のアドバイスや高校、大学の諸先生方の懇切丁寧なご指導のお蔭で今日の自分が存在することを考える度に感謝の念で一杯です。

さて、高校大学と長年月お世話になりましたが、年令も幼かったせいか高校三年間の思い出が特に強いようです。電大高はなんと言っても一年生の清里キャンピングで始めて自分達で作って食べたカレーの味、星空（天の川まで見えます）を仰ぎつつ友達と語り合ったテント生活、楽しく方吟したキャンプファイヤー。二年生では志賀高原でのスキー教室、白銀のもとシュプールを描いて滑り降りた醍醐味は忘れることができません。最大のイベントの修学旅行（三泊四日の東北旅行）思い出せば尽きない楽しい思い出が走馬灯のごとくわいてきます。その上私は高校一年の時から毎年の電高祭に委員として参加させて戴き沢山の先輩後輩と知り合い他校生とも楽しい交流を図ることもできました。これら楽しい学校行事の蔭には先生方の用意周到な準備と適切なるご指導があったからこそ感謝しております。

創立50周年記念 卒業生招待会

さる6月17日（土）、小石川校舎より徒歩2分にある日中友好会館の「豫園」（中国料理）におきまして、卒業生招待会が盛大に催されました。

今年で4回目を数えることになりました卒業生招待会は、昨年まで、卒業年度を10年ごとに区切って実施されましたが、今年は高等学校創立50周年にあたり、今回は卒業生全員をご招待するはこびとなりました。

この招待会への案内通知を昭和50年卒業までの全員の卒業生に直接ハガキで連絡を取り、そのほか工学情報等で広く連絡をはかりました。

ハガキによる参加予定者数は389名で、実際に当日出席された人方は252名でした。先生方も多数参加されて、会の盛り上がりに一役買っておられました。アルコールの力も加わって壇上で校歌を合唱したり、久し振りに会う友との語らいやご無沙汰している先生方との回顧談などで、楽しい一日を過ごすことができました。



250名を超える卒業生を前にして廣川理事長が挨拶をしているところです。



宮崎先生を囲んで昭和42年卒、渡辺光夫さん他3名、渡辺さんは現在福島県で会社を経営していますが、会社のマークは校章を形どったです。



吉田先生のクラスメイト集合
昭和17年卒小林信正さん他5名、昭和21年から毎年1回同窓会を行なってきました。今年は7月に北海道で2泊3日で行ないます。



池田先生を囲んで昭和46年卒、土屋昭治さん他3名、池田先生は戦争中の話「弾がおしりをかすめた！」そんな話をしてくださいました。

2008年1月号掲載

員様が翌年卒業高大對東京電機大



大江先生を囲んで、昭和35年卒、種田尊政さん他2名。ユニークなクラス会誌を5回も発行され、親子同伴のクラス会を目指しているそうです。



野口先生にビールを注がれて昭和34年卒、宮沢雅晴さん。「私は神田校舎で学びましたが、校舎がスズばけた印象を持っています。」と語っていました。



佐藤先生と25年ぶりの再会、昭和39年卒、田口健一さん。当時、生徒会長として活躍されました。現在は宮内庁に勤務されているそうです。



見崎先生を囲んで、昭和41年卒、白田英夫さん他3名。見崎先生を招いてのクラス会は、いつも足かけ2日になるほどの、大のお酒好きだそうです。



大久保先生を囲んで、昭和38年卒、星野穂さん他6名。思い出話、吉田孝俊先生のインド旅行土産話、キップ一枚でおしり拭く話は有名！。



神庭先生・鈴木先生を囲んで、昭和27年卒、横山真一さん他11名。昭和27年卒の全日制・定期制が一同に集合。

同窓会会則及び組織図

第1章 名称及び事務所々在地

第1条 本会は東京電機大学高等学校同窓会と称す。
第2条 本会は事務所を東京都千代田区神田錦町1-4
東京電機大学校友会内に置く。

第2章 目的

第3条 本会は会員相互の親睦を図り併せて会員と母校との連繋を密にし東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以って目的とする。

第3章 会員

第4条 本会の会員は特別会員、正会員、準会員よりなる。

2 特別会員は東京電機大学高等学校の教職員及び本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。

3 正会員は東京電機大学高等学校、東京電機工業学校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。

4 準会員は東京電機大学高等学校の在学生とする。

第5条 特別会員、準会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。

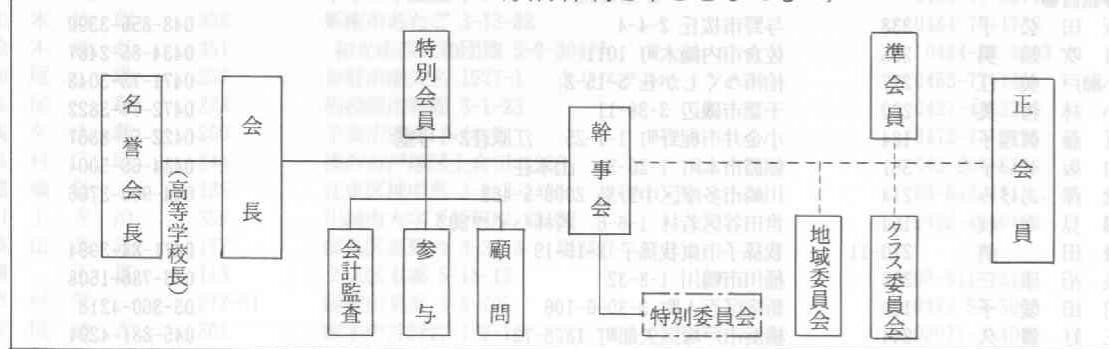
第4章 役員

第6条 本会には次の役員を置く。

- 一 名誉会長1名
- 二 顧問若干名および参与若干名
- 三 会長1名、副会長2名、及び幹事25名以上50名以内、会計監査2名
- 四 クラス委員を各クラス2名、地域委員を各地域同窓会1名をおくことができる。

—以下略—

《組織図》(執行体制を中心としたもの)



第5章 会合

第9条 総会は毎年1回会長はこれを召集し本会の事業経過計画案、幹事及び会計監査の承認、収支決算予算案の報告並びに議決をおこなう。

—以下略—

第6章 会費及び会計

第13条 本会に入会するものは入会金1,500円を納入するものとする。

2 本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以てこれを認める。

第14条 諸会合に要する経費は、その実費を徴収することができる。

第15条 会計監査は、本会の会計を監査する。

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第7章 会則の改正その他

第17条 本会則の改正は総会の議決を要す。

—以下略—

付 則

1 略

2 昭和56年6月27日全面改正

昭和57年6月26日第13条一項一部改正

クラス委員名簿

◎学校の沿革

電機第一工業学校 (東京電機工業学校)	設立	昭和14年4月	初 版	昭和49年4月
	廃止	昭和24年3月	第1回改定	昭和50年4月
電機第二工業学校	設立	昭和19年4月	第2回改訂	昭和51年4月
	廃止	昭和24年3月	第3回改訂	昭和52年4月
電機学園高等学校	設立	昭和23年4月	第4回改訂	昭和53年4月
東京電機大学高等学校		昭和31年2月1日 校名変更	第5回改訂	昭和55年4月
			第6回改訂	昭和56年4月
			第7回改訂	昭和58年4月
			第8回改訂	昭和59年4月
			第9回改訂	昭和60年4月
			第10回改訂	昭和61年4月
			第11回改訂	昭和62年4月
			第12回改訂	昭和63年4月
			第13回改訂	平成元年4月

◎東京電機大学高等学校同窓会

設立 昭和35年4月17日

所在地 〒101 東京都千代田区神田錦町1-4

TEL 03-294-1551 (代)

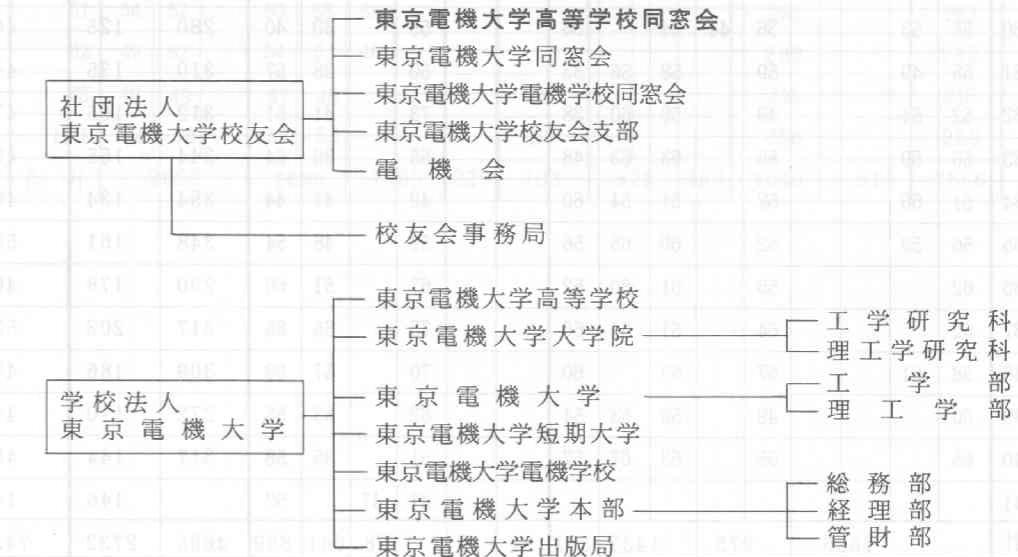
社団法人 東京電機大学校友会

◎東京電機大学高等学校

所在地 〒112 東京都文京区後楽1-7-26

TEL 03-813-6911 (代)

◎校友会・学校の組織



学校・学科・年次別卒業者数一覧

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				小計		合計		
	第1本科		第2本科		併設	第1本科		第2本科		併設			
	電気科	機械科	電気科	中 学		電気科	機械科	機械科	中 学				
	E	M	E	J		E	M	M	J	工業学校			
17			89						89		89		
18	51		85						136		136		
19													
20	101		91						192		192		
21	58		48						106		106		
22			100		132	50			100	182	282		
23	53		106	161	78	26	8	243	320	355	675		
24	117	26	65	359	190	46			567	236	803		
合計	380	26	584	520	400	122	8	243	1510	773	2283		

卒業年次	全 日 制						定 時 制						小計		合計		
	電 气 科						電 气 科										
	電力課程			電気機器課程			電気通信課程			電気計測課程			電 气 科	機 械 科			
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I	E	M	E ₁	E ₂	M	C		
24									94	10					104	104	
25	54	52		64	39					42	44				209	86	295
26	48	48	51	49	52		45			49	47	27	60		293	183	476
27	51	50	50		46	43	53			40	46	50	37		293	173	466
28	56	57			51	50				53		38	64		214	155	369
29	50	37			62	55	29			49		41	39		233	129	362
30	55	53			36	44	54	38		55		30	40		280	125	405
31	55	49			59	58	56	33		50		28	57		310	135	445
32	52	54			49	59	60	38		73		41	51		312	165	477
33	56	59			55	63	63	48		55		36	64		344	155	499
34	61	66			62	51	54	60		49		41	44		354	134	488
35	56	59			52	60	65	56		59		48	54		348	161	509
36	62				55	61	60	52		67		51	60		290	178	468
37	62				64	61	64	66		73		65	65		317	203	520
38	58	61			67	63	60			70		57	59		309	186	495
39	60				49	56	53	54		62		53	55		272	170	442
40	65				65	63	67	57		51		35	58		317	144	461
41										47	47	52			146	146	
合計					1696	975	1433	591	94	10	1128	641	859	4695	2732	7427	

学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

卒業年次	全 日 制										定 時 制		小計		合計		
	電 气 科			電 子 科			機 械 科		工 業 計 測 科		電 子 機 械 科	電 气 科		電 子 科			
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I	M		E ₁	E ₂	D				
	68	66		69	69	54		62							388		
41	54	56	50	64	59	52		56			42	39	47		391	128	519
42	56	54		58	54	54		55			48	41	37		331	126	457
43	61	64		67	64	68		56			64	64	380		128	508	
44	61	60		51	55	48	49				47	21	324		68	392	
45	66	63		62	64	55	55				47	20	365		67	432	
46	56	55		58	59	58	59								345		
47	50	51		52	52	53	53								311		
48	56	57		51	51	52	49								316		
49	55	52		61	62	49									279		
50	52	50		43	50	48									243		
51	59	59		58	56	50									282		
52	60	56		59	66	56									297		
53	51	55		49	51	52									258		
54	50	47		56	55	43									251		
55	49	50		49	51	51									250		
56	54	54		57	55	48									268		
57	50	47		51	54	53									255		
58	51	53		54	51	50									259		
59	50	50		43	43	50									236		
60	54	52		50	53	54									263		
61	49	49		47	48										252		
62	49	49		47	48										246		
63	54	52		51	51	46									246		
H 1	54	52		51	51										258		
合計	2669	2638		1409	229	103									517	7565	

学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

卒業年次	全 日 制					合 計	
	普 通 科						
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅		
27	37					37	
28	30					30	
29	39					39	
30	47					47	
31	58					58	
32	42					42	
33	50					50	
34	50					50	
35	60	55	110			115	
36	55	54				109	
37	55	53				108	
38	51	55				106	
39	59	56				115	
40	63	64	60			187	
41	63	64	63	65		255	
42	60	63	64	62		249	
43	58	56	58	58		230	
44	60	53	53	51		217	
45	55	57	57	57		226	
46	54	51	54	57	54	270	
47	49	49	50	49		197	
48	54	54	54	53		215	
49	52	52	55	48		207	
50	51	50	51	51	50	253	
51	53	53	54	52	42	254	
52	52	54	53	51	52	262	
53	52	51	53	52	52	260	
54	55	55	56	56	49	271	
55	54	53	55	54	50	266	
56	47	49	49	49	47	241	
57	53	51	54	52	48	258	
58	51	50	51	51	52	255	
59	50	49	49	50	51	249	
60	47	46	46	45	43	227	

卒業年次	全 日 制						合 計	
	普 通 科							
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆		
61	46	47	45	47	47	46	278	
62	54	53	54	54	52		267	
63	47	46	47	47	47	48	282	
H 1	28	47	46	47	46	47	261	
合 計	1941	1590	1331	1258	782	141	7043	

高等学校は学制改革による、校名変更や学科名変更等により、複雑なクラスわけとなっております。

現在437のクラスがありますが、約80クラスの委員が決定していません。まだクラス委員の決定していないクラスの皆様は是非この機会にクラス委員を決定していただけるよう御協力御願い致します。

また、昭和57年より高等学校同窓会会則改訂により1クラス、2名のクラス委員となりました。

なお、クラス委員は、各クラスの代表としてクラスと高校同窓会・校友会・高等学校とのパイプ役をお願いしています。委員の方には大きな負担をかけしていますが、委員の同窓会活動では大変重要な役目です。会員の皆様方も御協力よろしくお願ひ致します。

【凡 例】

18	堤 良富	・上段 クラス担任
	渡辺 和正	・下段 クラス委員

卒業年次	電機第一工業学校			電機第二工業学校		
	第1本科		第2本科	併設中学	第1本科	
	電気科	機械科	電気科		電気科	機械科
	E	M	E	J	E	M
17			稻垣 忠雄			
			佐々嶋長治			
18	堤 良富		清水 明			
	渡辺 和正		豊田 健造			
19						
20	清水 明		清水 明			
	高野 新吉		池ヶ谷道夫			
21	清野 明夫		作道 兵次			
	倉持 悅久		中村 政雄			
22			服部 三郎			加藤 高治
			栗屋 昭			
23	清水 明		吉田 宇一		磯部 直吉	早川 喜知
	青木 仁		蛭間 恵治		原口 喜八	伊藤 克己
24	清水 明	首藤 富家	吉田 宇一		金森 深海登世司	
	中田 勇	常広 武雄	鈴木 治郎		戸井田 豊	首藤 富家

卒業年次	定期制					
	電気科	機械科	電気科			
			電力課程	電気機器課程	電気通信課程	
	E	M	E ₁	E ₂	M	C
24	吉田 宇一	伊藤 克己				
	小竹 四郎	横山 実				
25		服部 三郎	吉田 宇一			
		鈴木 治郎				
26		鈴木 徳三	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	
		荒井 美喜男		小沢 位		
27		横田 良次郎	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	
		駒形 昌雄		小林 建雄		
28		河部 貞夫		首藤 富家	森田 恒久	
		佐藤 守弘				
29		鈴木 徳三		首藤 富家	角田 秀夫	
		関根 章		北風 康夫	森 真	
30		河部 貞夫		横田 良次郎	板垣 光夫	
		宮田 利一		松本 和夫	菅野 敬弘	
31		小針 藤男		首藤 富家	角田 秀夫	
				大沢 和夫		
32		河部 貞夫		大渡 正治	板垣 光夫	
		茂木 實		吉川 洋		
33		小針 藤男		大渡 正治	角田 秀夫	
		尾身 龍吉		与儀 正久		
34		角川 一治		小針 藤男	中島 輝夫	
				椎津 利雄		
35		角川 一治		大渡 正治	中島 輝夫	
		高島 清淳			池田 恒男	
36		桜井 松治		横田 良次郎	中島 輝夫	
		野村 力男			浜川 坦	
37		杉野 良知		桜井 松治	横田 良次郎	
		石崎 泰司		黒田 忠治	宮城 一治	
38		杉野 良知		下崎 和彦	大江 康男	
		上倉 幸男		安藤 忠	中山 勇次	
39		大江 康男		吉田 宇一	白川 守昭	
				坂本 寛		
40		吉田 宇一		下崎 和彦	松岡 三夫	
		見崎 正行	則友 克敏		長谷川裕一	
41					小杉 喜美	

卒業年次	定期制		
	電気科		電子科
	E ₁	E ₂	D
42	榎 将	山崎 修快	鈴木 治郎
43	高久 広毅	人見 芳行	鈴木 治郎
44	加賀 勉	厚谷 豊	井筒 幸二
45	鈴木 治郎		人見 芳行
46	大石 四郎		
	鈴木 治郎		鈴木 治郎
	金子 英司		乗添 和昭
	鈴木 治郎		鈴木 治郎
			石川 秋男

卒業年次	全日制							
	電気科				電気計測科			
	電力課程		電気機器課程		電気通信課程		電気計測課程	
E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I
25	高橋 源八	岩佐 徹			首藤 富家		角田 秀夫	
	中田 勇	戸井田 豊			常広 武雄		森山 満隆	
26	野口 茂	大江 康男	吉田 宇一	加藤 高治	佐藤 善慶		中島 輝夫	
	加藤 正樹			中島 政良	山川 保		早川 宏	
27	平野 三郎	大渡 正治	林 六郎		中沢 (実)	板垣 光夫	桜井 松治	
	新井 昭男	岩田 慶一	小島 輝一		今井 昇	横山 真一	野瀬 健一	
28	野口 茂	角田 秀夫			桜井悌二郎		鈴木 藤男	
	橋本 光男	青木 良造					渡辺 正行	
29	小西 吉孝	佐藤 善慶			中沢 (実)		中島 輝夫	伊藤 克己
		渡辺 勉					荻野 宏泰	尾島 崇弘
30	林 六郎	神庭 明			大渡 正治	吉田 宇一	桜井 松治	大江 康男
		石塚 武夫			小野 栄一		柴山 茂男	保坂 弘
31	杉野 良知	野口 茂			鈴木 徳三		吉田 孝俊	伏見栄治郎
	原口 尚久						森 健輔	坂井 孝志
32	角川 一治	桜井悌二郎			中沢 (実)		中島 輝夫	寺尾 功吉
	倉林 純一						増田 克己	柳 博
33	板垣 光夫	渡辺 明			吉田 宇一		桜井 松治	横田 良次郎
	飛田 健靖				後藤 隆夫			
34	杉野 良知	鈴木 徳三			中沢 (実)		野口 茂	吉田 孝俊
		高橋 清			松下 祐輔			中野 善夫
35	佐藤 吉弥	吉田 宇一			鈴木 治郎		角田 秀夫	佐藤 善慶
	北村 義明	名古屋 敏			鈴木 整司		見崎 正行	渡辺 黎一
36	板垣 光夫				小針 藤男		佐藤 善慶	白井光太郎
							日比野靖昌	藤田 安彦
37	野口 茂				斎藤 広吉		大渡 正治	角田 秀夫
	荒井 義久						柳田 佳孝	横溝 邦彦
38	大田 健	吉田 宇一			横山 実		鈴木 治郎	
	形屋 憲一	佐藤洋志郎					細田 勝久	鶴見 勝義
39	中島 輝夫				小針 藤男		高木 正夫	白井光太郎
							三橋 慶二	渡辺 太
40	中村 広幸				斎藤 広吉		桜井 松治	菊地 誠
							川村登志一	倉本 鑑

卒業年次	全 日 制							
	電 気 科			電 子 科		機 械 科		工 業 計 測 科
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I
41	大田 健	大田 健		角田 秀夫	鈴木 治郎	横山 実		中田 勇
	石附 正			印宮 登	渡辺 高幸			莊司 仁
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 登	白井光太郎	川島 純一	伊藤 克己		大江 康男
	原 邦男		烟山 昭一	平賀 徹		川田 純		新山 恒夫
43	斎藤 成信	中村 広幸		桜井 松治	菊地 諒	斎藤 広吉		渡辺 太
		和田 真一		杉本 好造				
	中村 隆一	中田 勇		高村 広昭	見崎 正行	横山 実		大江 康男
44	赤川富美樹	山越 茂雄		花嶋 秀年	菊嶋 和則	岡田 和恭		由井 康雄
	宮崎 登	加藤 栄治		白井光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実	
45	酒井 明	岡本 清次		松村 雅之	小川 晴夫	小野 喜之	鳥飼 洋一	
	大田 健	中村 広幸		白井光太郎	高村 広昭	石川 孝志	伊藤 克己	
46	川本 敏	秋山 清隆		石橋 和夫		田畠 有三	阿部 俊	
	鈴木 治郎	渡辺 太		見崎 正行	中村 隆一	大江 康男	山田 宏明	
47	大橋富士人	山田 宏己		早坂 幸雄	持木 文男	谷田部 宏	船田 嘉章	
	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実	
48	山内 利夫	尾身 栄一		日野 一武	渡辺 敏章	林 達也	大羽 克己	
	間辺幸三郎	高橋 源八		白井光太郎	大谷 稔	高村 広昭	中村 広幸	
49		山口 孝博		高橋 康一	岡田 孝治		石塚 仁史	
	高橋 源八	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫		
50	高瀬 裕司	杉浦 義彦		大谷 茂	佐藤 仁	高瀬 勝義		
	宮崎 登	鈴木 博		五十木基晴	大江 康男	横山 実		
51	平井 広史	神田 庄一		柳川 守	吉田 邦男	池田 邦明		
	間辺幸三郎	高村 広昭		菊地 諒	大谷 稔	櫻 勝		
52		大塚 徹		村上 裕一	前嶋 宏二	海川 次郎		
	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫		
53	後野 明仁	相川 次男		秋山 益満	清水 敏久	本間 昭伸		
	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実		
54	箱田 浩二	吉田 俊司		三輪 浩康	山瀬 康之	平澤 輝男		
	松岡 三夫	津村 栄一		菊地 諒	高村 広昭	櫻 勝		
55	石井 和之	柿原 俊行	手塚 勝	山田 富夫	福川 秀勝	小林 正一		
	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	林 幸男	横山 実		
56	鈴木 幸治	山崎 育昭		鈴木 昭広	新谷要次郎			
	斎藤 広吉	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明		
57	滝沢 聰	天野 裕一		平沢 一寿	今尾 裕	早坂 勝浩		
	鈴木 治郎	津村 栄一		見崎 正行	人見 芳行	山路 雅一		
58	福原 幸規	木村 武晴		山崎 誠人	富井 清隆	江部 智治		
	鈴木 博	高村 広昭		向芝 京太	石川 孝志	横山 実		
59	浅田 直樹	亀岡 和裕		大曾根康史	土屋 久郎			
	在藤 和幸	星野 雅幸		松田 和哉	松本 剛	鈴木 正成		
	斎藤 広吉	大田 健		渡辺 太	前嶋 万人	小峯 龍男		
60	青沼 孝	宮崎 佳之		安井 哲也	染野 明	猪鼻 一芳		
	深見 孝	野本 浩		石井 哲一	笠木 道義	岩崎 道義		

卒業年次	全 日 制							
	電 気 科			電 子 科		機 械 科		電子機械科
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	
61	津村 栄一	鈴木 治郎		見崎 正行	生熊 勝彦	宮本 治		
	中村 登	西井 光利		鳴島 浩	大和田 誠	新井 智也		
	河又 信司	亀田 秀明		増喜 太郎	松下 善一	山岸 岳人		
62	斎藤 広吉	渡辺 太		中村 隆一	妹尾 敬	大湯 幸夫		
	石田 亮	館澤 直紀		豊島 徹朗	寺島 大	村井 潤		
	近藤 大輔	木村 宏		中田 中	児玉 泰輝	山本 克郎		
63	大田 健	川口 純		前嶋 万人	五十木基晴			小峯 龍男
	藤本 賢司	石田 晋也		星野 信幸	川勝 真喜			佐藤 秀明
	村田 周也	石山 隆		田口 明洋	永木 康弘			柳澤 恵行
H 1	中田 勇	津村 栄一		見崎 正行	内山 章夫			古城 仁
	桜井 寿弥	西野 英一		池田 靖規	清水 肇			白川 憲悟
	清田 昌紀	渡辺 浩成		関根 康史	矢澤 哲弘			藤城 健治

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
27	青木 成宗				
	新井良二郎				
28	吉田 孝俊				
	諸橋 弘之				
29	宮本 敏雄				
	川西 康夫				
30	平野 三郎				
	大森 雄一				
31	佐藤 吉弥				
	黒岩 謙				
32	大久保芳隨				
33	神庭 明				
34	伏見栄次郎				
35	大久保芳隨	北原 泰彦			
	鈴木 茂雄	前嶋 万人			
36	神庭 明	大渡 正治			
	相川 祐三	植田 正昭			
37	伏見栄次郎	吉田 孝俊			
	五島 奉文	藤田 明也			
38	大久保芳隨	伏見栄次郎			
	加藤 計夫	我妻 功規			
39	神庭 明	板垣 光夫			
40	吉田 孝俊	伏見栄次郎	平野 三郎		
	渡辺 貞綱		高崎 新平		
41	大渡 正治	杉野 良知	石川 孝志	大久保芳隨	
	草間信一郎	野村 仁	村田 陽一	松井 努	
42	中島 輝夫	山田 宏明	磯部 昭二	白川 守昭	
	光木 保臣	戸江 栄一		大館 敏夫	
43	神庭 明	石川 孝志	板垣 光夫	吉田 孝俊	
	上原 博通	宮沢 秀実	六反田和幸		

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
44	山田 宏明	磯部 昭二	中村 圭佑	大久保芳隨	
	中村 悟	杉山 行男	渡辺 洋一	木伏 明人	
45	中島 輝夫	五十木基晴	則友 克敏	白川 守昭	
			菱田 豊彦		
46	杉野 良知	楳 将	板垣 光夫	高久 広毅	茂木 雅博
			本居 幸治		嵯峨崎孝吉
47	大久保芳隨	磯部 昭二	斎藤 成信	高久 広毅	
		三宅 清	浅見 正一		
48	中島 輝夫	人見 芳行	則友 克敏	白川 守昭	
	明石 弘一		木村 晴彦	佐藤 孝雄	
49	杉野 良知	板垣 光夫	石川 孝志	茂木 雅博	
	半田 孝	中台 淳一	新井 建也	藤田 清	
50	杉野 良知	磯部 昭二	斎藤 成信	高久 広毅	山田 宏明
	黒田 正人		川島 正春	古城 仁	秋山 公一
51	石川 孝志	則友 克敏	人見 芳行	松岡 三夫	林 幸男
	松丸 昭彦	安藤 政旦	石井 正一	種田 光利	柴山 仁
52	神庭 明	白川 守昭	板垣 光夫	中村 広幸	茂木 雅博
	増田 桂一		小野木広行		石渡 上
53	杉野 良知	中村 圭佑	松岡 三夫	高久 広毅	斎藤 成信
		目黒 香一	松岡 俊和	相原 浩一	遠藤 史郎
54	石川 孝志	則友 克敏	磯部 昭二	生熊 勝彦	板垣 光夫
	宮木 真人		小山 洋一	小出 修男	坂本 尚孝
55	大江 康男	斎藤 成信	人見 芳行	林 幸男	茂木 雅博
	本橋 功次	花房 勤	貴田真一郎	瀬賀 幸一	生方 健二
56	五十木基晴	中村 圭佑	宮本 治	高久 広毅	白川 守昭
	大館 昭彦	沢田 勉	吉水 雅彦	糸川 剛	道伝 弘昌
57	大谷 稔	田上 光治	磯部昭二	石川 孝志	板垣 光夫
	木村康二郎	山瀬 智晴	小林良太郎	小野寺智幸	飯塚 美治
58	大江 康男	石井 和之	高村 広昭	楳 将	松岡 三夫
	岩本 健	及川 俊也	飯田 公司	岩井 厚	長堀 岳治
59	宮本 治	吉場 章二	高久 広毅	大谷 稔	白川 守昭
	鈴木 幹也	内藤 剛	松島 克幸	藤原 国之	加藤 瞬
60	下間 靖浩	中島 忠彦	野村 英道	渡辺 泰幸	矢津 洋一
	山田 宏明	人見 芳行	林 幸男	磯部 昭二	山崎 晴康
	宮田 寛裕次	高田 剛史	大山 真一	小宮山敏樹	今中 繁義
		宮坂 茂春	京極 政宏	腰原 潔	坂田 朝徳

卒業 年次	全 日 制					
	普 通 科					
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆
61	古城 仁	則友 克敏	田上 光治	楳 将	吉場 章二	飯島 稔
	小俣 売一	海老澤 浩	青木 順	規夫 岩見田慎也	木齊 央	安達 三博
	篠森 勝己	西木 章員	服部 義郎	志村 祐幸	山田 賢二	横田 昇
62	白川 守昭	向芝 京太	高久 広毅	齋藤 成信	平山 桂樹	
	大畑 和彥	佐々木 徹	佐藤 賢一	高橋 宏明	塙田 乙	
	渋谷 郁夫	森田 正明	永井 仁	眞行 長谷川一之		
63	山崎 晴康	人見 芳行	高村 広昭	石川 孝志	山田 宏明	大谷 稔
	高橋 政人	三谷 哲也	斎藤 貴治	小林 利行	杉本 哲也	長島 正美元
	福島 修	鈴木 理裕	森谷 正規	阿由葉宏之	三木久城 中林	
H 1	中村 圭佑	林 幸男	田上 光治	向芝 京太	吉場 章二	飯島 稔
	大石 勝洋	中西勇真人	入江 睦也	青木 健	小暮 忠	小山 秀樹
	坂本 和規	小野 裕三	橋本 武洋	石井久仁彦	神保 秀樹	永瀬 裕晃

同窓会の

昭和63年度 事業報告

事業種別	日時・場所・内容	出席者等
総 会	昭和63年 6月25日(土) 於: 小石川校舎実演室 ○懇親会: 後楽園会館	会員 95名 来賓 20名 教職員 25名
同窓会誌の発行	同窓会誌「朋友」1988年版の発行 (昭和63年 6月25日) クラス委員名簿第10回改訂版 を含む	
教職員・クラス委員懇談会	昭和63年10月8日(土) 於: 後楽園徳亭 ○卒業生招待会(ホームカミング)について討議 ○クラス会の開催状況について討論	教職員 8名 クラス委員 3名 幹事 12名
新会員説明会	平成元年3月9日(木) 於: 小石川校舎体育館 ○新会員に高等学校同窓会の現状説明	卒業式場にて 新会員 519名
新クラス委員懇談会	平成元年3月9日(木) 於: 小石川校舎会議室 ○新クラス委員となる人と幹事の懇談会 ○高等学校同窓会への積極的参加を要請	教職員 4名 新クラス委員 22名 幹事 5名
卒業記念品の贈呈	平成元年3月11日(土) 於: 九段会館 卒業式 ○証書挟み・南部鉄製鍵型栓抜	卒業式に印宮会長、池ヶ谷、横山、松下各幹事奉列
クラス委員名簿の整備	昭和63年5月委嘱状と承諾書の発送回収	
クラス会開催の補助	クラス会を開催するクラスに補助金として5,000円を支給	33クラス
準会員活動奨励	昭和63年11月4日(金) ○電高祭優秀展示作品奨励 優秀賞: 1部門、奨励賞: 6部門	
準会員活動援助(校友会準会員事業基金の運用)	昭和63年9月30日(金) 於: 小石川運動場 ○体育祭のクラス別対抗表彰、全員に参加賞の配付 平成元年2月14日(火) 於: 江戸川区文化センター ○第10回文化講演会「私の映画づくり」 映画監督: 佐藤純彌先生	印宮会長奉列 須賀副会長奉列
卒業生招待会の協力	平成元年3月9日(木) 於: 小石川校舎体育館 ○第3回卒業生招待会(ホームカミング)の協力(招待者: 昭和41年~昭和46年迄の卒業生)	来賓 40名 卒業生 161名

昭和63年度決算報告 自昭和63年4月1日
至平成元年3月31日

科 目	金 額	科 目	金 額
入会金 528名×3,600円	1,900,800	事業費 総会費 教職員・クラス委員懇談会費	1,824,636 679,296 214,280
補助金	43,230	クラス会補助金 卒業記念品費	165,000 160,800
利子・配当金	270,769	同窓会誌製作発行費 準会員活動奨励費	555,260 50,000
雑 収 入	125,000	会議費 事務通信費 諸 費	157,850 70,490 182,810
		基本財産繰入	130,000
小 計	2,339,799	小 計	2,365,786
前期繰越金	183,291	次期繰越金	157,304
合 計	2,523,090	合 計	2,523,090

高等學校

名譽会長 宮崎登
会長 印宮登
副会長 見崎正行
" 大塚忠克

昭和63・平成元年度役員

職務	氏名	卒年	居住地
幹事	豊田 健造	18	小平市
"	野口 成治	18	千葉市
"	阿久津 功	23	市川市
"	今田 正郎	24	武藏野市
"	鈴木 治郎	24	新座市
"	宇野 敬助	27	柏市
"	柴山 茂男	30	横浜市
"	小長谷 登	31	横浜市
"	松下 祐輔	34	朝霞市
"	日比野 靖昌	36	文京区
"	大塚 忠克	39	浦安市
"	渡辺 尾喜	39	藤沢市
"	印宮 登	41	相模原市
"	向山 修一	48	江戸川区
"	平野 修一	49	新座市
"	古城 仁	50	越谷市
"	鈴木 元樹	54	相模原市
会計監査	横山 真一	27	市川市

活動報告

平成元年度 事業計画

事業種別	内 容	日 時
総 会	於: 小石川校舎実演室 1. 昭和63年度事業報告、決算報告、会計監査報告並びに承認 2. 平成元年度事業計画案、予算案の審議並びに承認 3. 役員の改選 4. その他	平成元年 6月17日(土)
同窓会誌 「朋友」の発行 クラス委員名簿第11回改訂版を含む	同窓会誌「朋友」1989年版の製作・発行 クラス委員名簿第11回改訂版を含む	平成元年 9月
クラス委員の委嘱	クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収	平成元年 5月
教職員・クラス委員と諸事項について協議及び懇談 同窓会・高等学校後援会・校友会への支援要請	同窓会・高等学校後援会・校友会への支援要請	平成元年 10月
新会員説明会	新卒業生に高等学校同窓会の現状説明	平成2年 3月 終業式場にて
新クラス委員懇談会	新クラス委員となる人と幹事の懇談会 高等学校同窓会への積極的参加を要請	平成2年 3月 終業式後
卒業記念品の贈呈	証書挟み・南部鉄製鍵型栓抜 校友会と共に	平成2年 3月 卒業式
クラス会開催の補助	クラス会を開催するクラスに補助金として5,000円を支給(他に校友会より10,000円と、往復ハガキ代(通信費)、学校法人より5,000円が支給されます。)	随 時
準会員活動奨励	電高祭優秀展示作品の奨励 クラブ活動の奨励	
準会員活動援助	体育祭・文化講演会・クラブ活動等の活動援助 (校友会準会員事業基金の運用)	
高等学校創立50周年記念卒業生招待会の協力	於: 日中友好会館 学校主催の高等学校創立50周年記念卒業生招待会への協力	平成元年 6月17日(土)

同窓会役員

参与 驚 見 篤 23年卒
" 谷 沢 正一郎 23 "
" 野瀬 健一 27 "
" 加藤 康太郎 29 "
" 賀 張 雅弘 31 "

平成1・2年度役員

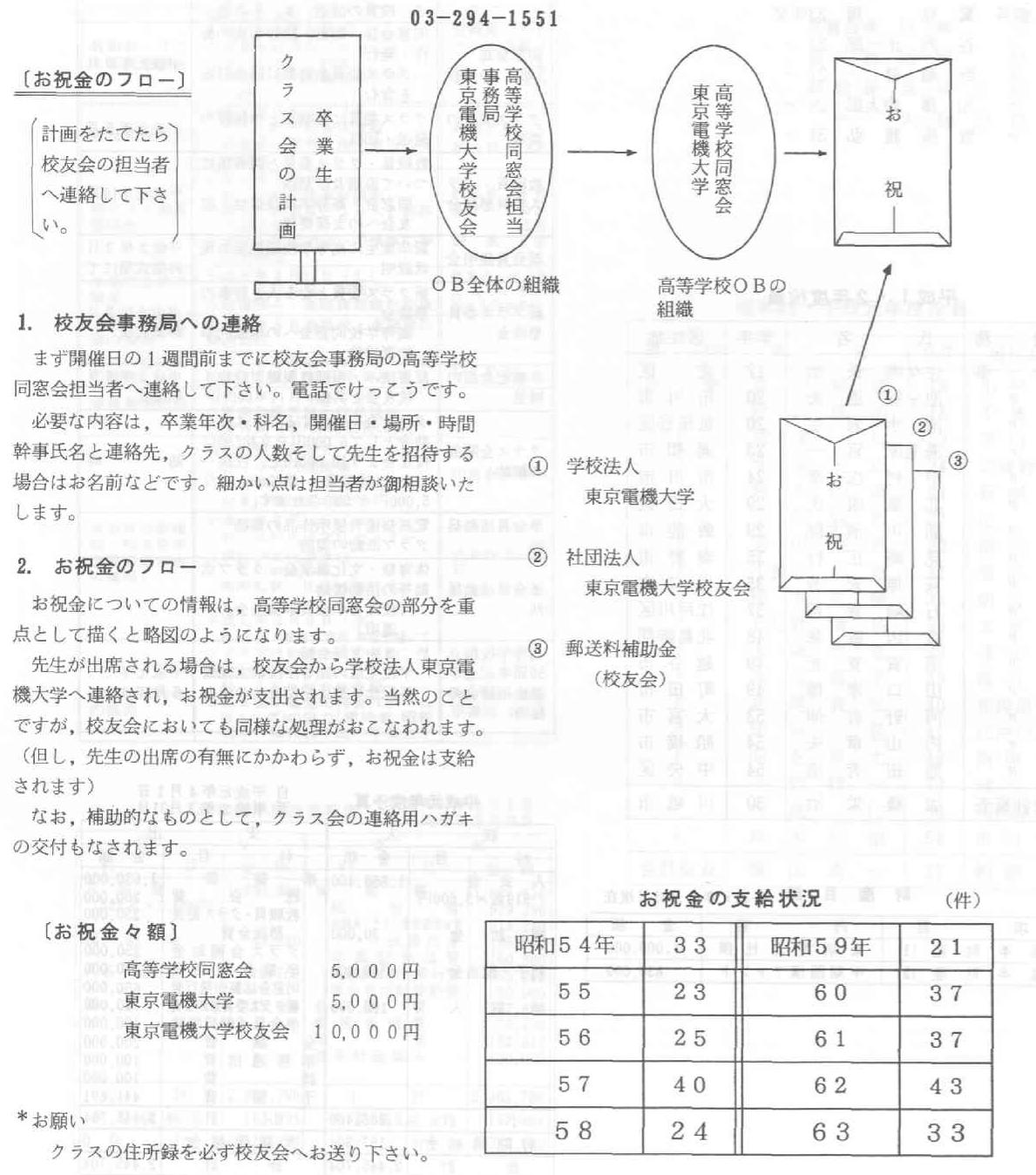
職務	氏 名	卒年	居住地
幹事	佐々嶋 長治	17	北区
"	池ヶ谷 道夫	20	市川市
"	清水 岩生	20	世田谷区
"	海老原 宮一	23	浦和市
"	中村 広幸	24	市川市
"	北風 康夫	29	大田区
"	間川 清太郎	29	飯能市
"	見崎 正行	35	秦野市
"	萩原 宏芳	35	川口市
"	石崎 泰司	37	江戸川区
"	渡辺 敏章	48	北葛飾郡
"	須賀 寛光	49	越谷市
"	山口 孝博	49	町田市
"	河野 吉伸	53	大宮市
"	内山 章夫	54	船橋市
会計監査	加藤 栄治	30	中央区

平成元年度予算 自平成元年4月1日
至平成2年3月31日

收 入	支 出		
科 目	金 額	科 目	金 額
入会金 519名×3,600円	1,868,400	事業費 総会費 教職員・クラス委員費	1,630,000 200,000 250,000
補助金	20,000	懇談会費 クラス会補助金	250,000
利子・配当金	300,000	卒業記念品費 同窓会誌製作発行費	170,000 650,000
雑 収 入	100,000	新クラス委員懇談会費 準会員活動奨励費	10,000 100,000
		会 譲 費 事務通信費	200,000 100,000
		諸 予 備 費	100,000 441,691
小 計	2,288,400	小 計	2,445,704
前期繰越金	157,304	次期繰越金	0
合 計	2,445,704	合 計	2,445,704

クラス会お祝金について

同窓会あるいは校友会が発展する基礎は、クラス会が活発におこなわれることだといわれています。高等学校同窓会においても、卒業生の母校に関連する活動を支援するものとして、クラス会を開く方々へお祝金という形をとって、ささやかですが御協力をさせていただいております。



1. 校友会事務局への連絡

まず開催日の1週間前までに校友会事務局の高等学校同窓会担当者へ連絡して下さい。電話でけっこうです。

必要な内容は、卒業年次・科名、開催日・場所・時間幹事氏名と連絡先、クラスの人数そして先生を招待する場合はお名前などです。細かい点は担当者が御相談いたします。

2. お祝金のフロー

お祝金についての情報は、高等学校同窓会の部分を重視として描くと略図のようになります。

先生が出席される場合は、校友会から学校法人東京電機大学へ連絡され、お祝金が支出されます。当然のことですが、校友会においても同様な処理がおこなわれます。(但し、先生の出席の有無にかかわらず、お祝金は支給されます)

なお、補助的なものとして、クラス会の連絡用ハガキの交付もなされます。

お祝金の支給状況		(件)	
昭和54年	33	昭和59年	21
55	23	60	37
56	25	61	37
57	40	62	43
58	24	63	33

* 卷一百一

クラスの住所録を必ず校友会へお送り下さい。

名簿の整備・校友会案内

1. 原 簿 の 整 備

本会の会員名簿の原簿はデータ処理を迅速、かつ、正確に行うためコンピュータによって処理されています。同窓会は会員の皆様から住所、勤務先などの変更届が出されると、直ちに原簿であるマスターテープを修正し、つねに最新のデータが格納されるよう努めています。

住所・勤務先 その他に変更がありましたら、必ず校友会に御一報願います。また同様に、知人、友人につきましても現在発行している名簿より、変更されていましたら、校友会に御連絡下さい。

東京都千代田区神田錦町1-4
東京電機大学校友会内 高校卒業者名簿係
TEL 03-294-1551(内線5550)

2. 名簿の頒布

昭和63年度版卒業者名簿の頒布価格は現在2,500円ですが、平成元年10月1日より申込みの場合は2,000円に減価されることになりました。購入ご希望の方は代金(送料は別途310円)を添え、現金書留でお申し込み下さい。

校友会費を納めましょう。

高校同窓会の行事や学園の近況などは工学情報に記載されます。お手元に届いていない方は、下記のとおりお申し込み下さい。また、クラス会開催の場合、祝い金等の制度もありますので名簿編さん（住所・勤務先）とも併せてご協力くださいますようお願いいたします。

	記
◦ 1 年 分 会 費	2,000 円
◦ 3 年 分 会 費	6,000 円
◦ 5 年 分 会 費	10,000 円
◦ 終 身 会 費	60,000 円

○ 納入方法

- 郵便振替
 - 現金書留
 - 銀行口座自動

校友会は、皆様からの会費によって運営されております。財政的な基盤が確立していなければ十分な校友会活動もできません。ぜひとも多数の卒業生に会員になっていただき、校友会並びに母校の発展充実に一段のご支援をお願い申し上げます。

後援会活動

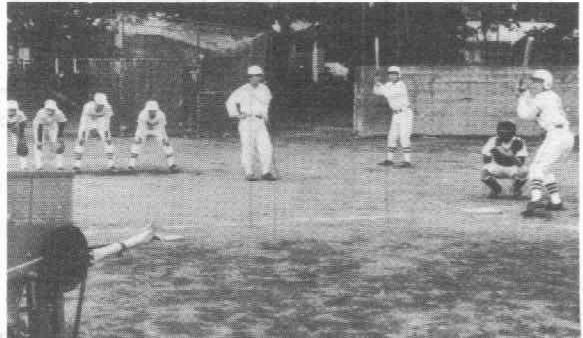
高校後援会は昭和54年12月、学校、同窓会、PTA、およびPTA・OB等各意の努力と熱意により発足し、会員の募集等を行い具体的活動に入り満8年を数えるに至りました。クラブ活動の援助として現在は運動場への

車代等にすぎませんが、昨年よりは今年、今年よりは来年と、すこしでも生徒の活力を増大するため努めて行きたいと考えて居ります。現在後援会の組織図は下記のとおりです。

〔後援会組織図〕



理事会及び評議員会の構成メンバーは、同窓会・PTA・PTAOB・学校、のそれぞれから選出されています。



*今後の後援会活動を活発にする為に機会をとらえ下記趣旨の入会即進のお願いもいたして居ります。1人でも多く会員への参加勧誘をお願いいたします。

「後援会入会のお願い」

初秋の候 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃 東京電機大学高等学校の教育につきましては格別のご理解を賜り衷心より御礼申し上げます。

ご存知のように、学校ではかねてより生徒の人格形成と体力の増進を目指して指導をされております。その重要な一つの方策として課外の部活動に力を入れておられます。先生方の丹精なご指導で着実にその成果をあげられ、最近は、特にいくつかの運動部で目ざましい進歩が見られ、全国大会もあと一歩という所までこぎつけておられますことはご同慶の至りに存じます。

然しながら、本校の課外活動についての環境は必ずしも恵まれたものとはいえない状況で、学校もPTAも現在出来る限りの援助をされておられます。それにも自ずと限度もあり、顧問の先生方や生徒諸君もかなりの出費を余儀なくされた状況で練習や試合に参加しているのが現状であります。

そこで、せめてその経済的な側面だけでもお力になりたいという気持から、学校のご諒解を得まして、昭

和54年12月5日に東京電機大学高等学校後援会が設立されました。

つきましては皆様方にも是非、この趣旨にご賛同をいただき一人でも多くご加入をいただき一日も早く生徒諸君の経済的な負担を軽くし、クラブ活動に専念していただける日の実現を期して力を合わせて参りたいと存じます。1人1人の力はたとえ小さくとも結集すれば大きな力になります。そしてそれがやがては学校を支える強い力になることを確信いたします。

何卒各位のご協力ご理解を賜り後援会に入会していただきますようお願い申し上げます。

平成元年9月

東京電機大学高等学校後援会
会長 池ヶ谷道夫

有志各位 殿

●編集後記●

今年の「朋友」はいかがでしたでしょうか。今年より新たに高等学校の教員3名を編集委員に加え、「朋友」の一層の充実を計りました。

かくゆう私も新メンバーの1人であります。委員になってみて、小冊子ではありませんが中々大変な作業だということをつくづく実感しました。このような編集という業務を初めて体験したわけですが、一般に編集に携わり数百頁に及ぶ月間・週刊紙を出している方々はどんなにか大変なのか想像だに出来ないことです。しかし、来年もより実りのある「朋友」となるように頑張りますので、高校同窓生の皆様よろしくお願ひ致します。

また、原稿執筆に御協力をいただきました方々には、この場をかりて厚く御礼いたします。

〔編集担当〕柴山茂男・向芝京太・須賀寛光・古城仁
河野吉伸・内山章夫

平成元年9月10日 発行 (非売品)

〔編集兼発行所〕

東京電機大学高等学校同窓会
住所: 東京都千代田区神田錦町1の4
東京電機大学校友会内
電話: 03-294-1551 (代)

東京電機大学高等学校
住所: 東京都文京区後楽1-7-26
電話: 03 (813) 6911 (代)

東京電機大学高等学校校歌

土岐善磨作詞
信時潔作曲

力強く $\text{♩} = \text{約}104$

一、都心の天地は高くひろく
かがやき集る時代の文化
科学と技術の上に立ちて
真理を仰げば富士に雲なく
勤労の道に希望あり

二、創意の火花は潔くさえて
平和のいとなみ昼夜絶えず
社会の進歩と共に享けて
静かにたどれば回路正しく
新たなる世界開けたり

三、歴史に榮ゆる電機学園
高校我等の負ひゆく使命
親愛ひとしく競ふ意氣に
相呼び相寄る自治のよろこび
協同の歩み力あり